

6. ネイキッド培地を利用したイチゴの育苗技術 – 実用化を目指して –

1. 背景とねらい

イチゴはクリスマス需要等により11～12月にかけて販売単価が高く、この時期の増収が生産者の所得向上につながります。当センターでは、年内増収を図る技術として、ポリポットが不要なネイキッド培地をイチゴの育苗に利用する技術を開発しています(平成26年度成果情報)。しかし、普及には培地のコスト高が問題でした。そこで、低コスト化のために培地容量を減らしたネイキッド培地の実用性を明らかにしました。

2. 成果の内容

- 1) ネイキッド培地は表面がむき出しの固化培地で、培地表面から水が気化することで培地温度が低下します。コストは培地の容量を少なくすることで低減できます(表1)。
- 2) ネイキッド培地の容量を250mlから130mlや50mlに減少しても、いずれも8月末に花芽分化して11月の中旬から収穫できます(表1)。また、年内収量や総収量も培地容量による差はありません(図1)。
- 3) 50mlのネイキッド培地は、培地が小さいため育苗中に苗が倒れ易いこと、培地から外に根が多く出るため定植時の作業性が悪いことから、実用的でない判断しました(表1)。
- 4) 以上のとおり、130mlのネイキッド培地は、年内増収の効果を維持したままコスト低減でき、苗の質も良いことから(図2)、実用性が高いと判断しました。

3. 利用上の留意点

- 1) みのる産業株式会社、京和グリーン株式会社から、培地容量約120mlのネイキッド培地(商品名:エクセルソイル24)が販売されています。
- 2) ネイキッド培地は乾きやすく頻繁なかん水が必要なため、底面給水装置が必要です。

(栽培技術研究部)

4. 具体的データ

表 1 容量の異なるネイキッド培地の性能比較



培地種類 容量	ネイキッド培地			(参考) ポリポット
	50ml	130ml	250ml	250ml
推定価格 (1鉢あたり)	10円	20円	50円	7円
花芽分化時期	8月30日(ネイキッド共通)			9月6日
収穫開始時期	11月19日	11月16日	11月22日	11月29日
作業面での 評価	× ・苗が倒れ易い ・定植しにくい	○	○	△ ・土詰め作業必要

注) 栽培に関するデータは、品種「紅ほっぺ」での 2013 年の結果に基づいています。

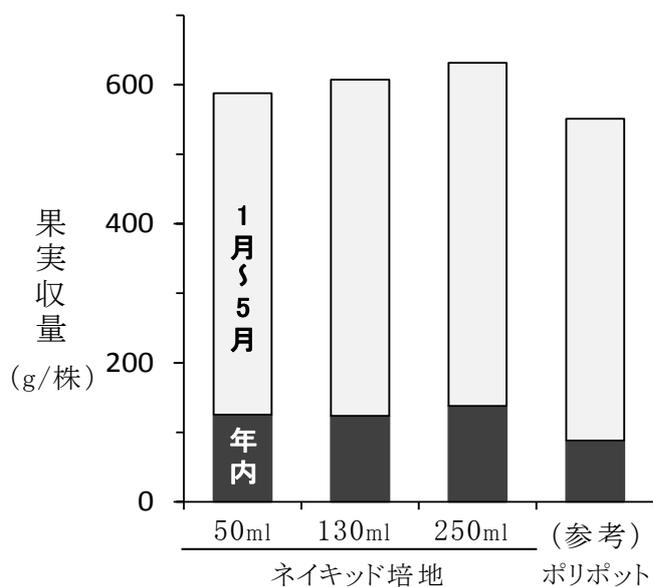


図 1 ネイキッド培地の容量を減らしても
年内収量・総収量は同程度

収穫期間 2013 年 11 月～2014 年 5 月
品 種 紅ほっぺ



図 2 130ml ネイキッド培地のイチゴ苗